

ムツソリーニ獅子吼

「イタリアの行手は平和へか・戦争へか」

昨日チユリンに於る演説要旨

(チニン十四日開盟) ムツソリーニ首相は先づ獨伊聯軍の鐵壁不動の陣を謳歌した後伊獨兩國に對する經濟戰爭は既に開始されてゐるが兩國は断じて包圍政策の前に屈するものではないと喝破した。演説要旨の通りイタリー國民は進み、然して建設し戰ひに勝つた、アフリカでは經濟封鎖と戰ひ、スペインではモクラシートとボルシズムの聯合軍と戰ひこれに勝つた、アルバニアの征服はあらゆる分野に於ける我國力の強化を意味する。イタリーの進みにつゝあるは平和へか又は戰争へか?客觀的狀勢よりすれば吾等は戰争を正義づける事が出來ぬ、斯る戰争が一度歐洲に起れば忽ち世界戰争に擴大するであらう、これが今日の不安定な情勢に對して嚴しく眞實を注視する獨伊兩國の軍備の進行であり、ここ數年続いた獨伊聯軍工作は今後もたゞ進展するであらう、獨伊聯軍は最近締結された「獨伊政治軍事同盟」によつて愈々不可分のものとなつたが、右協定は本月中にペルリンで調印される筈である。アシストの主義並に政綱は不動且つ不要である、吾々はドイツと共に人類の理想たる「正義に基づく平和建設」の爲直路邁進するであらう、モクラシートの辯護者は來りて吾等の心懐を檢討せよ、彼らは「その國情が破局に致してゐるから平和を求める」と云つてゐるが、イタリアは其體の事をここ十日も経験して來たのだ、いまやフランスの勢力はイタリーに對し毒牙を磨きつつある。しかしこの佛伊戰境の比エモンズ地方は斷成して彼等の跋扈を受けるものではない、乍然と民主主義の眞の平和政策に對し民主主義國家群は果して始まるであらうか、吾等はざるゝ持つてこない數年間の歐洲の地圖は独りへられた然しドイツもイタリヤも日本も民主主義國家の運動も、兵卒をも參つてはゐないではないか、彼等は如何なる方法で現在の國家を棄いたかを反省せよ、獨伊にピストルを打込んでベルサイユ懇親會の存續許可は政敵側で大分

我海鷺の重慶爆撃

第三國權益に何等の被害なし

警喚に價する我爆撃の正確さ

ヒ總統突如 獨佛國境視察

(香港十四日開盟) 重慶來電 明治つてある、重慶に駐屯海軍を有する佛國大使は、あるが、アメリカ人の事務所一處空襲は市内各所の軍事施設に於ける空襲による右海軍艦。ク所の損傷もまた火災による

によれば未だ十二日のわが軍團を有する佛國大使は、あるが、アメリカ人の事務所一處空襲は市内各所の軍事施設に於ける空襲による右海軍艦。ク所の損傷もまた火災による

支那式救國基金募集

次々に頭をはね

將兵の手には元の十分ノ

打振る「日の丸」の波

同蒲線 蒲州 間開通



(アヘン) 獨佛國境
視察

暴行及び日本側との密接な

往来

ウスに對し左の要旨の公文

を手交した

コロナス共國租界の治安は

最新柔軟日本本人に対する

ウスに對し左の要旨の公文

を手交した

コロナス共國租界の治安は

